

2023 年度 国際漁業学会大会個別報告プログラム

※報告時間は 17 分、質疑応答は 8 分です。

第 1 会場 (8333 室)		
時間	座長	報告課題・報告者
09:55 10:20	(東京海洋大学) 松井隆宏	1-1. 持続的な漁協自営定置の仕組みと成立条件—重茂漁業協同組合を事例として— 及川光 (東京海洋大学大学院)、婁小波 (東京海洋大学)
10:20 10:45		1-2. 5 類移行 1 年目における経済系での水産物教育～あれって何が問題だったんだろう～ 小川健 (専修大学)
10:45 11:10		1-3. 生物間相互作用が定量化できるデータと資源評価手法の検討 岩田繁英 (東京海洋大学)
11:10 11:35	(東京海洋大学) 大石太郎	1-4. 持続可能な漁業管理に対する日本の消費者の補償受容額: 仮想評価法による分析 若松宏樹 (農林水産政策研究所)
11:35 12:00		1-5. メタ分析による消費者の水産物に対する支払意思額の検証—水産物トレーサビリティとの対応関係に着目して— 朱毅 (東京海洋大学大学院)、廖凱・小川美香子 (東京海洋大学)
12:00 14:30	休憩・総会 (13:15～14:15)	
14:30 14:55	(農林水産政策研究所) 若松宏樹	1-6. 愛知県におけるシラス漁獲量と環境要因との関連 小山新 (三重大学大学院)、山田二久次 (三重大学)
14:55 15:20		1-7. トラフグ養殖の環境影響評価に関する日中比較分析—LCA のアプローチから— 廖凱・婁小波 (東京海洋大学)、楊正勇・張迪 (上海海洋大学)、川辺みどり・佐々木剛 (東京海洋大学)
15:20 15:45		1-8. 消費者アンケート調査による水産エコラベルのロゴの印象に対する実証的評価 宗土博 (東京海洋大学大学院)、大石太郎 (東京海洋大学)
15:45 16:10	(水産研究 神山龍太郎・教育機構)	1-9. マグロ養殖業の主産地形成と競争力分析 林琦 (東京海洋大学大学院)、李欣 (上海海洋大学)、川辺みどり・婁小波 (東京海洋大学)
16:10 16:35		1-10. 中国のサーモン市場をめぐる各国の競争関係—養殖アトランティックサーモンに着目して— 李新炎 (東京海洋大学大学院)、婁小波 (東京海洋大学)

第2会場 (8305室)		
時間	座長	報告課題・報告者
09:30 09:55	(国際農林水産業研究センター) 宮田勉	2-1. 洋上風力発電と漁業協調のありかた—銚子地域を事例に— 川辺みどり・婁小波 (東京海洋大学)、岩村きらら (元東京海洋大学)
09:55 10:20		2-2. BBNJ 新協定による区域型管理ツールの交渉経緯と今後の展開 マハウオンウィリヤ スタシニー (東京海洋大学大学院)
10:20 10:45		2-3. 新しい「海業」イニシアティブで日本の沿岸地域は順風満帆か? 欧州連合 (EU) の FLAG プログラム経験からの教訓の紹介 DELANEY Alyne (東北大学)
10:45 11:10	(大東文化大学) 山下東子	2-4. 水産伝習所官立化過程の再検討—農商務省榎本大臣・金子次官体制との関連から— 高橋周 (東京海洋大学)
11:10 11:35		2-5. クロマグロの TAC 管理を巡る諸問題 大塚諒介・荒川唯 (東京海洋大学大学院)、婁小波 (東京海洋大学)
11:35 12:00		2-6. 壱岐市における小規模マグロ漁業の持続可能性について —ブルージャスティス (Blue Justice) の視点から— 徐威 (東海大学大学院)、李銀姫 (東海大学)
12:00 14:30	休憩・総会 (13:15~14:15)	
14:30 14:55	(東京海洋大学) 原田幸子	2-7. 社会生態システム・フレームワークにより海業と里海を捉える試み 日高健 (近畿大学)
14:55 15:20		2-8. 漁協による漁港でのプレジャーボート受入事業の可能性に関する一考察: 海業振興や漁協経営に寄与する横島漁協の取組みを例に 佐藤昭人 (東京海洋大学客員教授)
15:20 15:45		2-9. 漁業におけるジェンダー平等の促進に関する研究—漁する女子ジャパンを事例に— 村岡未夢 (東海大学大学院)、李銀姫 (東海大学)
15:45 16:10	(東京海洋大学) 中原尚知	2-10. 水産加工業の外部環境の大きな変化対応にみる持続可能性 木佐貫正博 (株式会社アール・ピー・アイ)、 小松康人 (公益財団法人水産物安定供給推進機構)、 朱毅 (東京海洋大学大学院)、小川美香子 (東京海洋大学)
16:10 16:35		2-11. 海外の IUU 漁業規制に対する産地市場における対策と実態 小川美香子 (東京海洋大学)、酒井純 (食品需給研究センター)